

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 生活支援・人材育成 部会	参加者数	30人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成29年7月7日(金) 13:30 ~ 15:15				
主 テ マ	<p>1 あいさつ</p> <p>2 今年度の方針</p> <p>3 地域生活支援拠点整備の圏域内での動き(報告)</p> <p>4 新事業所紹介</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(辰野アドバイザーより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成には、専門知識を持った人材を育成できるよう団体・組織へ働きかけることと、地域のあらゆる社会資源の発掘という2つの意味合いがある。この部会でいう人材育成の意味を皆さんとともに考えていきたい。 ・ワーキンググループを立ち上げ、人材育成を根本から見つめ直すことも大切ではないかと考えている。 <p>2 について(下平部会長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、サービス管理責任者の皆さんに集まっていただき、2回ほど連絡会を開き、ヨコのつながりを強めていく予定。 ・自分たちが元気になれるような講演会も企画していきたいと考えている。 <p>3 について(事務局より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点整備は、緊急時の受け皿づくりを具体的に形にしていくものである。 ・多機能拠点整備型と面的整備型とがあるが、上伊那は面的整備型により、今ある社会資源を上手に組み合わせ、うまく活用しながら、拠点整備を進めていく。 ・4、5月に相談支援専門員と市町村で緊急時対応が必要な方のリストアップを行った。今後は対象者を精査した上で、台帳整備を進めていく予定である。 ・8月頃には、緊急時の受入施設拡大のため、事業者向けの説明会も開催予定である。 ・今後の進捗状況は、各部会で随時お知らせしていくつもりである。 <p>○意見要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点の対象者は、広くとらえ障がい児も含めて整備の検討をお願いしたい。(伊那養護学校) →その方向で考えている。(事務局) ・受入先の整備と合わせ、自宅への支援者の派遣といった視点もぜひ検討してほしい。(伊那養護学校) →1つの貴重なご意見として、お聴きしたいと思う。(事務局) <p>4 について(各事業所より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たに立ち上がった圏域内11事業所より、事業所紹介があった。(敬称略・順不同) ○事業内容等、詳細については、各事業所へお問い合わせください。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもプラス伊那(放課後等デイサービス事業所) 伊那市にH28年12月開所。柳沢運動プログラムを導入。 ・Re☆すた〜と(相談支援事業所) 南箕輪村アップ☆わ〜く内。外部の方の計画相談も受けていきたい。 ・ぼんだ(相談支援事業所) 南箕輪村にH29年7月開所。計画相談は、障がい児・者ともにOK。 ・おぶしょんアルファ(就労継続支援B型・就労移行支援事業所) 箕輪町にH29年9月開所予定。多機能型。 ・ほたるっこ(就労継続支援B型事業所) 辰野町にH29年2月開所。定員20人。受託作業中心。利用者募集中。 ・弥生が丘グループホーム(運営:NPO法人 樹) H29年7月開所。アパート形式。寮母住込24時間対応可。 ・グループホーム南天(運営:救護施設順天寮) 駒ヶ根市にH29年8月開所。アパート形式。1人空きあり。 ・グループホームいなほ(運営:駒ヶ根市社会福祉協議会) 駒ヶ根市にH29年7月開所。定員6人。空きあり。 ・ゆめわーく・さくらの家(運営:伊那市社会福祉協議会) H29年4月より生活介護をスタート。短期入所検討中。 ・はばたき(生活介護・生活訓練事業所) 飯島町にH29年5月開所。運営は飯島町社協。中央クリニックの隣。 ・グループホームまゆっこ(運営:パンセの会) 伊那市にH29年4月開所。身体障がい者向け。2人空きあり。 <p>○子どもプラス伊那からは、放課後等デイサービスの役割や柳沢運動プログラムの紹介があった。</p> <p>○救護施設順天寮からは、救護施設の紹介があった。日常生活を営むことが困難な人の自立を目指す「地域のセーフティネット」として生活保護法に規定された施設である。</p> <p>○伊那市社協からは、輪っこはうす・コスモスの家も含めた3事業所の改編概要についても説明があった。</p>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動方針や地域生活支援拠点整備の動きについて、情報を共有することができた。 ・圏域内に立ち上がった新事業所の情報に触れ、圏域内の社会資源についての最新の動向を把握できた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は、平成29年9月頃に、サービス管理責任者対象の内容で行う予定である。 					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 生活支援・人材育成 部会	参加者数	35人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成29年10月2日(月) 13:30 ~ 15:10				
主テーマ	1 あいさつ 2 ワークショップ:「支援者のエンパワメント」～支援の中で素敵な気づきをするために～					
主な意見など	1 について(辰野アドバイザー) ・従来の情報や考え方を教えてもらう学習スタイルから一歩進んで、演習をしながら、支援の現場に研修内容が活かせるようなワークショップを期待している。圏域の人材育成についても検討中であり、素案がまとまったところで皆さんにも提案していきたいと思っている。 2 について(講師:長野大学社会福祉学部准教授 端田 篤人先生) ○6グループに分かれワークショップを行った。 ○ワークショップの概要は、以下のとおり。 (1) DVD視聴 ・長野大学生が社会福祉学部を志望する高校生向けに作成したオープンキャンパス用DVDを視聴した。 (2) 演習1:「どんな支援者になりたかった？」 →これが皆さんの「希望」にあたる。WRAP(元気回復行動プラン)では希望をとっても大切に考えている。 (3) 数字で尋ねる(スケーリング・クエスチョン) ・演習1の内容が10だとすると、10段階で今ほどのレベルに位置しているかを確認 (4) 演習2:「1つレベルを上げるために、できることは？」 →このアイデア集が、WRAPでいうところの「元気に役立つ道具箱」にあたる。 (5) 社会福祉実践とは？ ・現行の法制度下では、人員不足と多忙により、「衣(医)・食(職)・住」への対応に追われ、「遊(余暇)・友(友達づくり)」や「信頼できる関係性づくり、希望や愛情のある暮らし、本当に必要な支援」が後手後手にまわっている。多職種協働で多様な価値観のせめぎ合いの中、価値の揺らぎはモヤモヤ感を醸成する。 (6) 演習3:「モヤモヤすることは？」 →これが、WRAPでいうところの調子を崩すかもしれない「引き金」にあたる。 (7) 倫理的ジレンマ ・相反する倫理的課題の狭間で悩んだり苦しんだりすることを倫理的ジレンマという。 ・倫理的ジレンマの例 規範的ニーズ(生活維持)vs主観的ニーズ(そんなことは必要ない！) (8) 演習4:「対処法を考える」 ・演習3の「モヤモヤすること」に対する対処法を考える。 (9) ストレス・コーピング ・ストレスに対処することをコーピングという。 ・コーピングには、「問題焦点型コーピング」と「情動焦点型コーピング」がある。 (10) 過去の解決法を訊く(コーピング・クエスチョン) ・例「これまでどうやって切り抜けてきたの？」等 →使用することで支援の押しつけがましさを軽減可能。 (11) 演習5:「元気であるために毎日しなければいけないこと」 (12) WRAP(元気回復行動プラン)とは？ ・詳しくは、「WRAPの道具箱」 http://wrap-jp.net/index.html を参照のこと。 ・WRAPの5つのキーコンセプト:「希望・自分の責任・学ぶこと・自分を権利擁護すること・サポート」。 ・WRAPは、元気に役立つ道具箱と6つのプランからなる。今日はその一部を演習で体験した。 (13) エンパワメントを進める信念(まとめ) ・自分の長所を強調する。長所探しにはご本人と支援者の協力が必要。どんな状況下でも資源は必ずある。 ・誰にでも長所はある。長所を見つける方法として、リフレーミングがある。 ・長野大学生によるリフレーミング例の紹介 例:目が悪い→見たくないものを見なくて済む 等。 ・リフレーミングを活用することで、ネガティブ表現をポジティブに置き換えることもエンパワメントにつながる。					
まとめ	・WRAPのエッセンスを用いながら、支援者が元気になれる方法を演習を通して、ともに考えることができた。					
次回	・詳細は未定。サービス管理責任者対象の取り組みについてを現段階では予定している。					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 生活支援・人材育成 部会	参加者数	38人	会場	西駒郷 ゆうあいホール
	日時	平成29年11月21日(火) 13:30 ~ 15:15				
主テーマ	1 講演:「地域生活支援拠点とサービス管理責任者」 2 講師との意見交換(質疑応答) 3 その他					
主な意見など	1 について(講師:社会福祉法人高水福祉会 のぞみの郷高社・総合安心センターはるかぜ 野口直樹所長) ○標記テーマに基づいて、1時間ほどの講演が行われた。概要は次のとおり。 (1) 地域生活支援拠点整備の3つの目的及び求められる5つの機能について ・拠点整備の目的及び機能を十分に踏まえた上で、整備を考えていくことが肝要である。 (2) 最近の障がい福祉の考え方から ・日本は平成26年に障害者権利条約を批准。 →福祉の仕事や事業の根拠となる法律にも、障害者権利条約に沿った形で文言が明記されてきている。 (3) 総合安心センター「はるかぜ」ができるまで ・平成22年 老朽化した2つの入所施設の今後の在り方プロジェクトが立ち上がる。 ・平成23年 入所施設の有存在意義を次のように結論づける。 入所施設は24時間365日の支援がある場所。 地域に24時間365日の支援がないから、当事者のニーズなき入所施設への入所に至ってしまう。 →地域に24時間365日の安心を創ろう! ・平成24年 総合安心センター試行。 4万円のボロボロのテナントを借り、24時間体制の職員を法人内で募集。何とか10名集めてスタート。 ・平成26年 厚生労働省科学研究事業に参加。 ・平成27年 第4期福祉計画に地域生活支援拠点が明記される。 ・平成28年 総合安心センター「はるかぜ」完成。同年6月より運営開始。 ・平成29年 4月より北信圏域多機能整備型拠点となり、地域生活支援拠点整備完了を宣言。 (4) はるかぜの取り組み ・入所施設の24時間365日の途切れぬ支援(安心)を北信圏域全体に届けるのが役割。 ・サービス調整(登録)会議にて、はるかぜコーディネーターが登録内容を精査。現在92人登録。 ・在宅の当事者のもとへ登録書にしたがって、緊急対応職員、プランに沿って、居宅介護職員を派遣。 ・モニタリング会議にて登録内容の修正を適宜行う。 ・緊急短期入所も受けるが、あくまで受入は一時的。48時間以内に支援対策会議で今後の方向性を出す。 (5) 入所施設「のぞみの郷 高社」の今後について ・遅くとも2年後には、5つのグループホームに解体予定。 ・現在の「はるかぜ」の事業がそのまま規模を大きくして「のぞみの郷高社」にて行われるようになる予定。 ・具体的にはグループホーム(定員15)、ショートステイ(定員10)、24時間365日居宅支援を行う場所となる。 ・グループホーム化に合わせ、定員40名程度の日中活動の場も新たに立ち上げる予定である。 (6) いわゆる「親なき後」問題について ・5つのグループホームへの入居及びはるかぜの24時間365日の在宅支援で、地域生活をカバーしていく。 (7) おわりに ・地域移行は場所から場所への移動ではない。健常者と変わらぬ生活機会を保障する支援が必要である。 2 について ○「はるかぜ」の実践をお聴きしての質問、感じたことなどを各自意見交換シートに記入した。その間、NHKで「はるかぜ」の実践を取り上げた時の映像が流れ、それを見ながらの感想記入となった。 ○主な質問は、次のとおり(回答略)。 ・はるかぜ運営の経済的基盤はどうなっているか? 親なき後の本人の生活を支える経済基盤をどう考えるか? ・グループホーム入居者の高齢化に伴い、本人が希望すれば看取りまでグループホームが担うべきなのか? ・はるかぜができ、地域移行して暮らしている人たちは、満足感を持って生活できているか? ・サービス調整会議にはどんな人が参加しているか? グループホーム立上げ時、地域の理解は得られたか? 3 について ・上伊那圏域障がい福祉計画について(伊那保健福祉事務所 宮城課長補佐より) 標記計画を策定中とのことで概要説明があった。ご意見・ご要望があれば、市町村福祉課か宮城さんまで。					
まとめ	・地域生活支援拠点「はるかぜ」が障害者権利条約と関連する法令改正の動きと呼応する形で、24時間365日の生活を地域で支える事業所としてどのように誕生したかをお聴きし、拠点整備の意義を再確認できた。					
次回	・詳細は後日お知らせする。					

平成29年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 生活支援・人材育成 部会	参加者数	12人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年2月14日(水) 13:30 ~ 15:00				
主 テ ー マ	<p>1 あいさつ</p> <p>2 サービス管理責任者連絡交流会</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(辰野アドバイザーより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス管理責任者をやっている、日々いろいろな経験、葛藤があると思う。本日は、ざっくばらんに各自の思いを話し、共有し合うことで、サービス管理責任者同士のヨコのつながりを作るきっかけとしてほしい。 <p>2 について(参加者全員)</p> <p>(1) 交流会テーマ:「サビ管をやっている泣けるとき、笑えるとき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標記テーマに基づいて、グループに分かれての意見交換を行った。 ・1グループ6人、計2グループで、お茶やお菓子を自由につまみながら、かすかにBGMも流れる中で、ゆったりリラックスした雰囲気味わいながら、それぞれの思いを語り合い、共有し合った。 <p>(2) 話し合いの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(アイスブレイク含む) ・自分の事業所のいいところ、課題だと思うところ ・事業所で印象に残るステキな利用者さんベスト3 ・サービス管理責任者の連絡会を今後開催することについて <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れはあったが、あくまで目安であり、その時々で思いついた悩みや、発言したいことを優先し、各々の思いを率直に語り、共感し合ったり、他事業所との情報交換をしたりして、グループごと、気楽に話し合うことができた。 <p>(3) 出された主な意見</p> <p>ア 事業所のよいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手厚い支援ができる。外出機会を多く設定できている。 ・個別支援を中心に、本人のやりたいことを応援しようという姿勢を大切にしている。 ・スタッフが利用者さんの良い面に着目した支援をしようという姿勢がみられる。 <p>イ 課題と感じる点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員との連携のあり方。 ・監査対応や管理・経営面について(管理者との関係、現場の支援員との関係)。 ・利用者さんの増加⇔個別対応充実の難しさ。 ・施設老朽化等への対応(費用面)とスタッフの人材育成。 ・利用者さんのリスク管理(転倒、怪我等)とどう向き合うか。 <p>ウ 利用者さんへの思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思疎通を図ることが難しい方が笑顔になったとき、とても温かい気持ちになれる。 ・利用者さんの思いを知ることができたとき等、日々の新たな気づきや発見が自分の学びになる。 ・自分自身が気持ちに余裕を持ち、落ち着いて支援に当たれることが大切。 <p>エ サービス管理責任者の連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ざっくばらんに語り合える会があるとありがたい。他事業所の様子や、悩みや課題の共有もできる。 <p>(4) 感想発表(各グループより1人ずつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加にあたり、不安が強かったが、最後はもっと話したい気持ちになれた。こうした機会は他職員にも必要。自分の悩みを共感してもらえ、明るい気持ちになれた。よい支援をするためにも職員間のストレス発散の場は大切。今後もこうした機会があるとよいと思う。 ・楽しくあっという間の時間だった。悩みや愚痴を話し、聴いてもらえ元気になれた。サビ管同士でもっとつながっていきたい。利用者さんのステキなエピソードが聴けたのもよかった。サビ管の集まりはぜひ開催してほしい。より多くのサビ管に参加してもらい、思いを共有できたら、と感じた。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃交流の少ないサービス管理責任者同士が、普段なかなか話せない悩みや思いを共有し合うことができた。 ・サービス管理責任者の集まりについては、参加者の多くが、開催を希望していることが分かった。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の部会は、今回が最終となります。1年間、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き、積極的なご参加をお願いします。 					